

Imaging Team

掲載内容

1) 商品情報

- ・MetaMorph Premier パッケージでアプリケーションモジュールが任意に選択可能になります
- ・多次元データ取得/表示機能ご発注時における Simultaneous Timelapse 機能の取扱のご注意について

2) 技術情報

Ludl 社製 MAC6000 コントローラを USB 経由接続で架空 RS232C として接続する Virtual COM 接続の方法について

3) Journal のご紹介

Stream Acquisition において任意の枚数を指定したディレクトリに自動的に保存かつ、指定回数繰り返す事が可能な Journal について

1) 商品情報

- ・MetaMorph Premier パッケージでアプリケーションモジュールが任意に選択可能になります

MetaMorph Premier パッケージご発注時に、Premier パッケージに含まれる専用解析モジュールであるアプリケーションモジュールが以下 13 個のラインアップから 5 つ、ご選択いただく事ができるようになりました。

- 40154 Neurite Outgrowthアプリケーションモジュール
- 50119 Angiogenesisアプリケーションモジュール
- 50123 Count Nuclei & Cell Scoringアプリケーションモジュール
- 50124 Multi Wavelength Cell Scoringアプリケーションモジュール
- 50125 Cell Cycleアプリケーションモジュール
- 50134 Cell Healthアプリケーションモジュール
- 50135 Granularityアプリケーションモジュール
- 50136 Live/Deadアプリケーションモジュール
- 50137 Mitotic Indexアプリケーションモジュール
- 40187 Multi-Dimensional Motion Analysisオプション
→従来のオブジェクト追跡解析機能”Track Object”をさらに発展させた3次元動体解析可能なモジュールです
- 50146 MicroNucleiアプリケーションモジュール
→酵母などで見られる核小体を高精度に検出し、個数カウントなどの解析を行う事が可能なツールです
- 50004 Screen Acquisitionオプション
→電動ステージを使ってWellプレートのスクリーニングを容易に行う事ができるモジュールです
- 50005 Screen Playbackオプション
→50004 Screen Acquisitionオプションで取得したデータのReviewツールです

また、これまでではPremierパッケージでもオプション扱いであった上記赤文字で記述のアプリケーションモジュールも同様に、お選びいただく事ができるようになりました。

アプリケーションモジュールの選択が増え、かつ必要な物を任意に5つまでお選びいただくことでさらなるユーザーリクエストにお答えする事が可能になりました。

- ・多次元データ取得/表示機能ご発注時における Simultaneous Timelapse 機能の取扱のご注意について

過去のセールスノートで御紹介させていただきました、Multidimensional Acquisition で異なるインターバルタイムや撮影ポジション等の撮影条件を組み合わせたタイムラプス撮影を行う事ができる、Simultaneous Timelapse 機能ですが、31219 多次元データ取得/表示機能をお持ちでかつ、V7.7 ライセンスを有している方あるいは、新規に機能追加をいただいた方で、機能追加をご必要とお申し出いただいた方へのみ無償でご提供させていただきます。
(Premier・Basic 共に)

技術情報

Ludl 社製 MAC6000 コントローラを USB 経由接続で架空 RS232C として接続する Virtual COM 接続の方法について

フィルタホイール、電動ステージ等で御使用頂くことの多い、Ludl 社製 MAC6000 コントローラは通常 PC との接続は RS232C で行いますが、RS232C ポートが使用できない場合、USB 接続で PC 内部で疑似的 RS232C として接続認識を行う Virtual COM 接続を行う事が可能です。

簡単に接続方法についてご案内いたします。

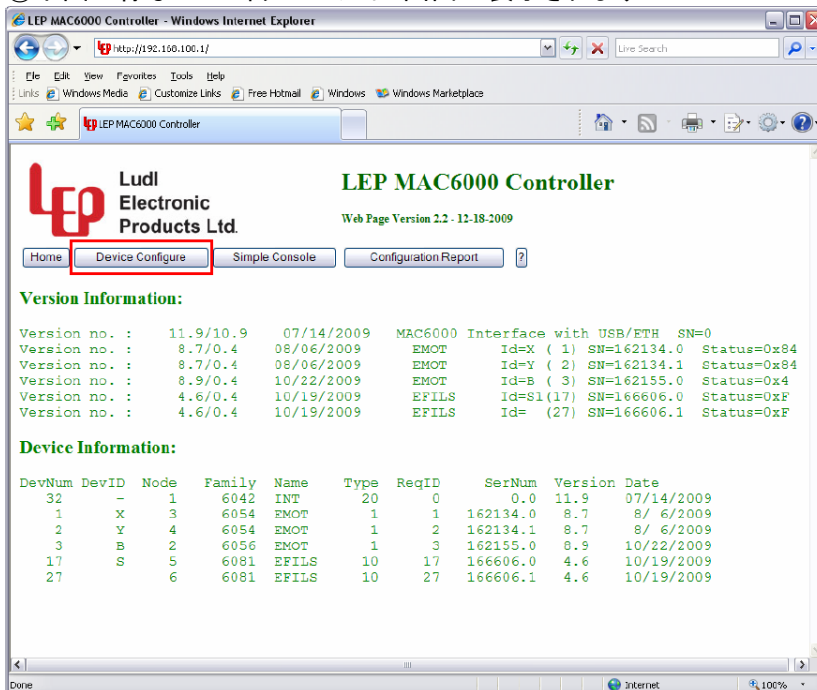
なお、**Virtual COM 接続は 2010 年 8 月現在において、64bitOS には対応しておりません**

*** 設定の前に USB ケーブルで PC と MAC6000 は接続しないでください**

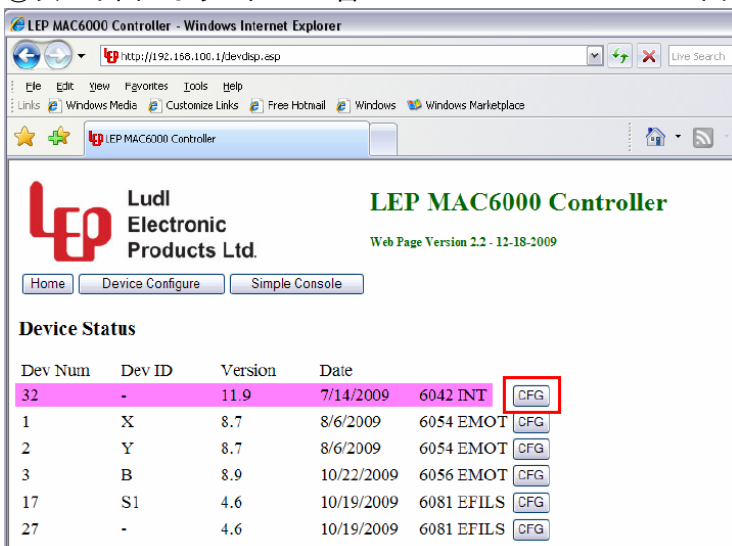
①MAC6000 と PC をクロス LAN ケーブルにて接続します

②インターネットブラウザ(Internet Explorer や FireFox など)を起動し、以下のアドレスを入力します
<http://192.168.100.1>.

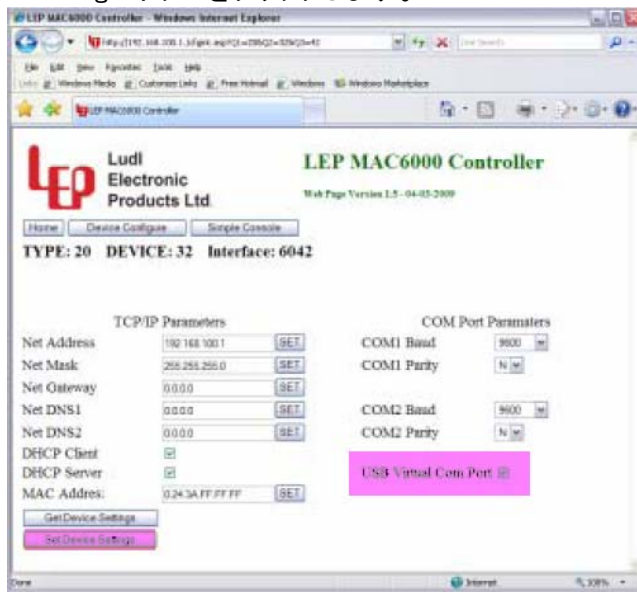
③下図の様なコンフィグレーション画面が表示されますので Device Configure ボタンを押します



④次に下図のようにリスト一番上の Dev Num"32"の CFG ボタンを押します。



- ⑤下記画面に切り替わりますので、USB Virtual Com Portにチェックを入れ、SetDevice Settings ボタンをクリックします。



ここまで操作が完了しましたら、インターネットブラウザを閉じてください

- ⑥MAC6000 購入時に付属している CD-ROM の Drivers フォルダにある VCPDriver_V1.1_Setup.exe を実行します



VCPDriver_V1.1_Setup.exe

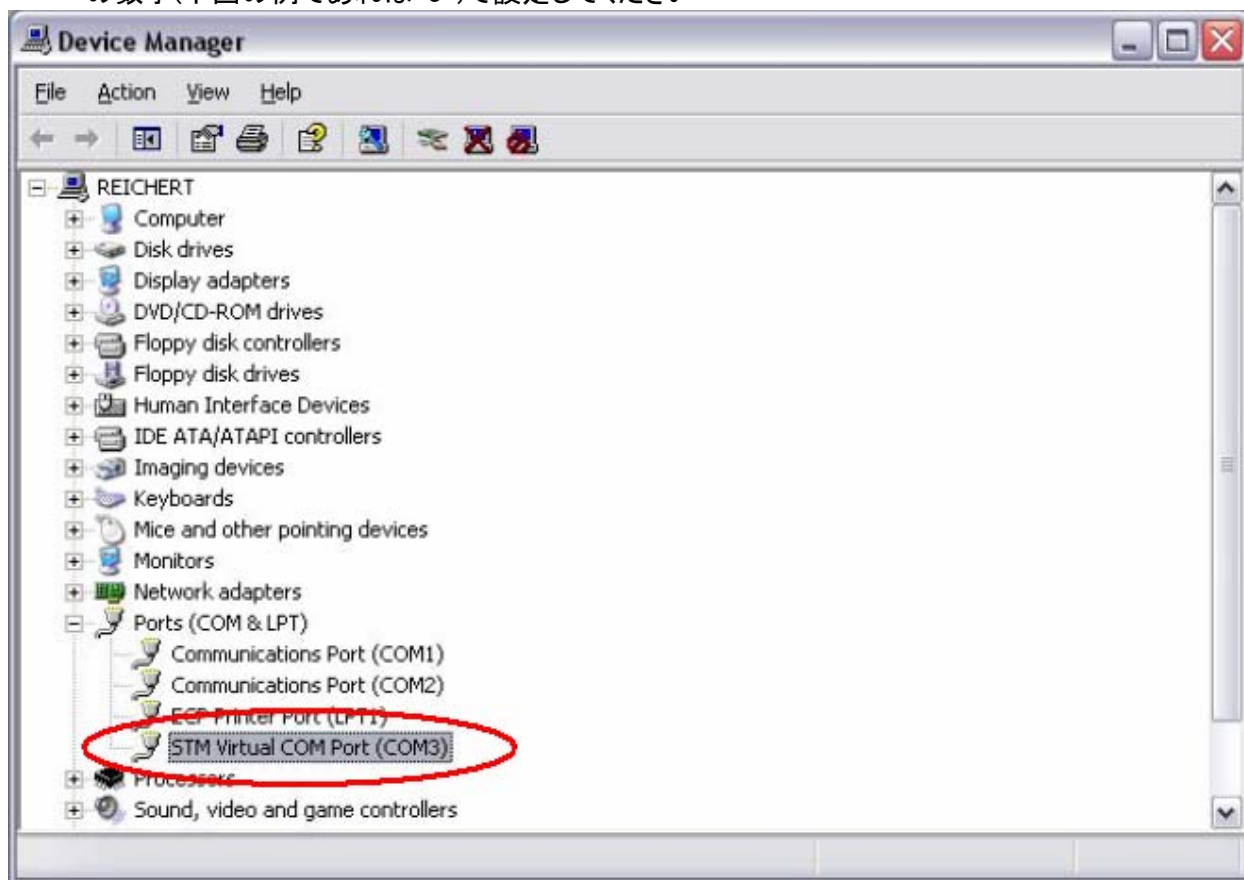
- ⑦インストール中下記の様なウィンドウが表示される事がありますが、Continue Anyway ボタンを押して処理を続けます



- ⑧インストールが完了しましたら、MAC6000 と PC を USB ケーブルで接続します。
“新しいハードウェアが見つかりました”と表示されデバイスドライバのインストールウィザードが起動しますので、自動でのドライバインストールを行います。下記画面が表示されますが Continue Anyway ボタンを押して処理を続けます



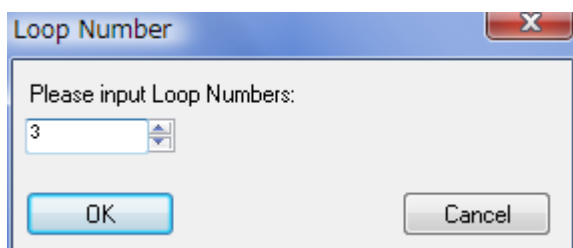
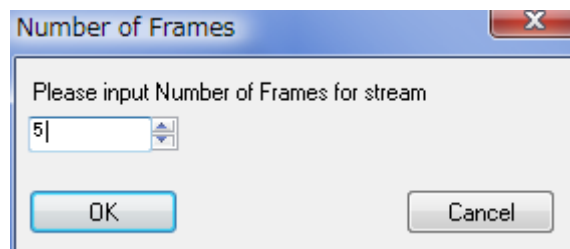
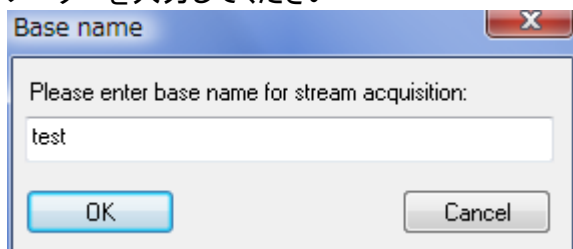
- ⑨以上の操作が完了しましたら、デバイスマネージャーを起動し、Ports(COM & LPT)の項目から STM Virtual COM Port として認識されていれば設定完了です。
なお、MetaMorph でこの方法で設定する場合は COM の番号を STM Virtual COM Port(COM *)の * の数字(下図の例であれば”3”)を設定してください



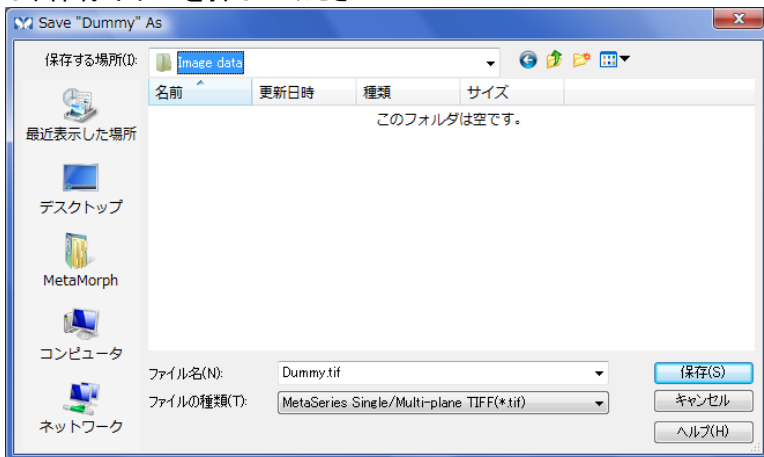
Journal のご紹介

Stream Acquisition では現在、Stream to HDD を選択することでハードディスクに記録しながら Stream 撮影をする事ができますが、本 Journal を使う事で、設定した Stream 撮影を指定した回数繰り返しながら、自動で画像を指定したディレクトリに保存することが可能となります

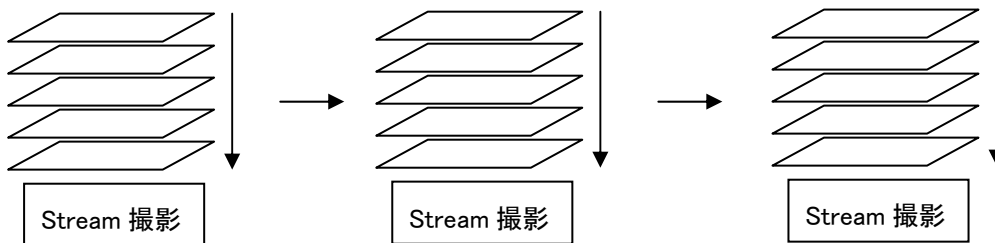
Journal を起動すると、画像名、撮影枚数、繰り返し回数を入力する画面が表示されますので、各パラメーターを入力してください



続いて画像の保存画面が表示されますので、Stream で取得した画像を保存したいディレクトリを選択し、保存ボタンを押してください



保存後、Stream が指定された枚数を指定された回数分繰り返します。Stream 枚数が 5 枚で繰り返し回数が 3 回とすると以下のようになります。

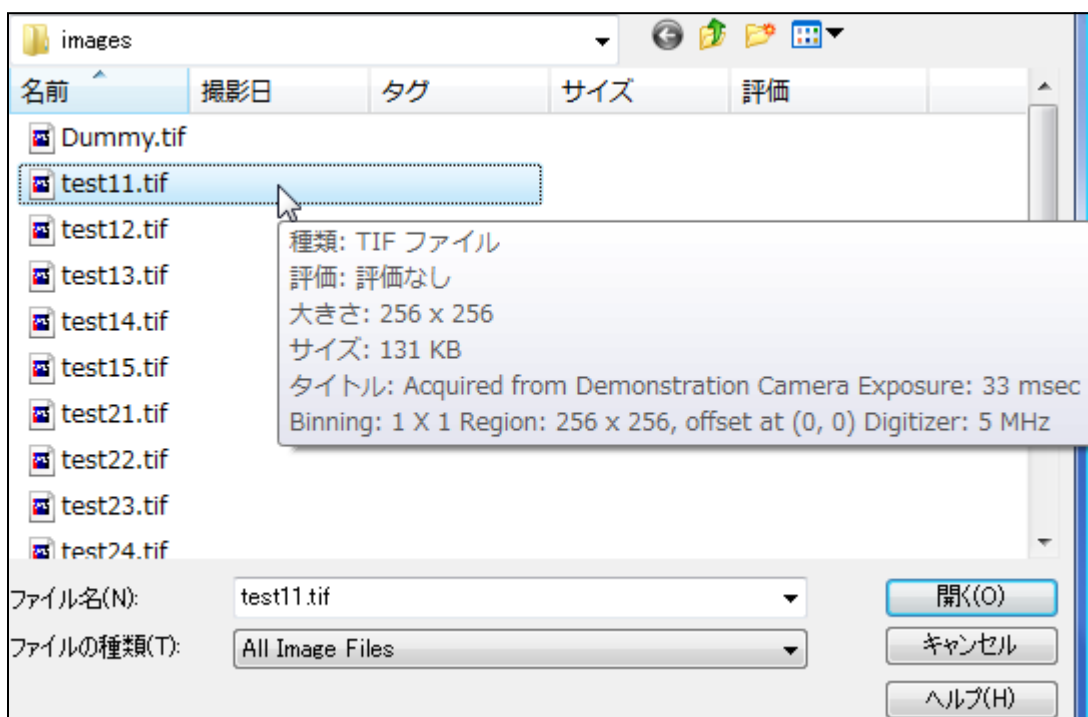
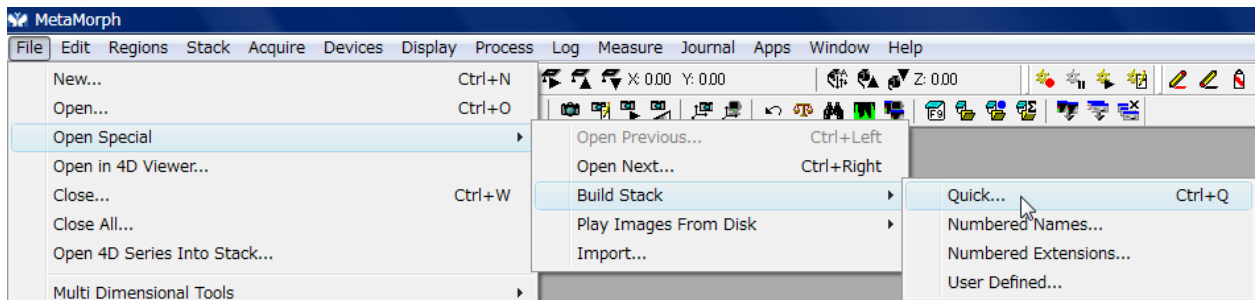


取得された画像は連番の Tiff ファイルとして以下の様な形態で保存されます

名前	
Dummy.tif	保存先を設定するためのダミーデータ。記録画像ではありません
test11.tif	1 回目の Stream 撮影データ
test12.tif	
test13.tif	
test14.tif	
test15.tif	
test21.tif	2 回目の Stream 撮影データ
test22.tif	
test23.tif	
test24.tif	
test25.tif	
test31.tif	3 回目の Stream 撮影データ
test32.tif	
test33.tif	
test34.tif	
test35.tif	

画像データは
画像名+ループ番号+Stream のプレーン番号+.tif
 という形式になります。
 例えば test11.tif であれば
 1 ループ目の Stream 撮影 1 枚目のデータとなります。

取得したデータをループ毎の Stream ファイルを Stack ファイルにして Load したい場合は、File→Build Stack→Quick を選択いただき、Stack にしたいループの Stream ファイルの一番最初のファイル(今回の例で言うと test11.tif、test21.tif、test31.tif が該当します)を選択するだけで Stack ファイルにする事が可能です



また、Journal を改造すれば Stream 撮影の繰り返し間隔に指定したタイムインターバルを組み込む事も可能です

以上